



12041.12

娘

若

娘

若

娘

~13
3938
5



浦

假名文章娘節用後編中之巻

江戸 曲山人補綴

第五回

小この糸川よりにかかると名鏡巻五出り

志すひの紅粉かきあはせはちうと化後で

振ひまきあき一本うらへ入の細うちをめぐりまして

のりやこまりの金立帯の子持とてあえふ

あつたぬいづりおひふふえんハ戸松よりかいまき出り



了

そのとうけて枕をぬてぐひ。そこらぬぐづけ金五郎の形おせ
とこまとんで戸棚へまきひ。火鉢のそたんをうら。とたこと^いうぐ
 のこ。おをひある。海より本をよみよとらぬげ。よこるぐ乳
 母とをあー。コウおやよ。こんまこととらうぐ。まうぐ。つま
とらぬるつとつらうぶ。ごらうぐの。氷のまづまこと人の形とる
さざいなど。定めまいぬぬのよい。せ。海より本の二務をるるる
かみつらうの。方のうへよく似てあるぐあひ。いろと。海きの
 美理おのこらうま。どんるまごうれあるらよも。し。ま。い。ん

マアさうなつてどうもやうと。かお昔労働のまいけほど。
 そのまらううらぐ葉とらきて。人の知ぬ物をとらめる
よよト。おのりのりとおをらうらへ。し。な。ら。う。は。ア。レ。ま。ご。し。て。め。く。
おんそんるまひも。うぬるま。あ。う。や。る。め。の。で。い。ひ。ま。り。ま。せ。ん。
さんその二務の。方のうへ。そまの。おん。の。裁。作。め。の。今。ま。き。源。
ま切ぬるんのかの。と。芝。葉。う。あ。あ。ま。本。で。い。あ。る。ま。い。し。
 どうしてそんるまごあうまぬぬのう。こころゆみらい。う
 なる。うらう。ト。おさんおむねとまであらう。おんおさううの。い。が。ま。お

おんおさうう

二



お茶屋

九

さか内うちで入いらつひゆるさるさるざらうう。さかさ一いもをもつが
まののゆいどららざととかかおひひるるままつてつららでももく
ああののままらら。そそととふふけけららででいい目めふふままてて。ざざんんくくはは
酒さけががよよららうう。ままららととふふ昔むかし勞らうででるるみみひひよよ。ささかか一いのの
何なにとといいええままててもも。つつねねららううはは純じゆん性せいをを新あらたつつててああるる由よし也なり。
酒さけををああづづつつててははままささんんのの財さいハハ。そそのの財さいででああるるううよよい
けけととどど。ややつつををううかかゆゆままさんさんふふももああののままららううふふ。無む理りををうう
ららううああつつままららううとと。新あらたままららううそれそれがが業わざトトららままるるよよ。

ささかか一いのの女によのの情なさけどどめめいいととかかののふふかか方かたををままつつととままく
いいひひててかかめめ一いつつままもも浮う世せのの義ぎ理りやや二につつふふもも。かかのの
ふふああををああののふふ也なり也なり。ふふももままららううとと。いいひひままままままで
のの伯おきなののせせつつるるまま。ままののままららうう一いつつトト
一い清きよををままででごごごごららままままでで。誓ちか言ごああももりりああららうう。一いつつかかままへへをを
又また二につつとと。何なにとといいふふててももままららせせぬぬううききせせ十じゆ分ぶんままららううハ
ごごごごららまませせぬぬのの。いいららううくくはは昔むかし勞らうああををままららうう。因ゆゑ念ねんと
中ちゆうででごごごごららまませせううトト
さか内うちで入いらつひゆるさるさるざらうう。さかさ一いもをもつが
まののゆいどららざととかかおひひるるままつてつららでももく
ああののままらら。そそととふふけけららででいい目めふふままてて。ざざんんくくはは
酒さけががよよららうう。ままららととふふ昔むかし勞らうででるるみみひひよよ。ささかか一いのの
何なにとといいええままててもも。つつねねららううはは純じゆん性せいをを新あらたつつててああるる由よし也なり。
酒さけををああづづつつててははままささんんのの財さいハハ。そそのの財さいででああるるううよよい
けけととどど。ややつつををううかかゆゆままさんさんふふももああののままららううふふ。無む理りををうう
ららううああつつままららううとと。新あらたままららううそれそれがが業わざトトららままるるよよ。

ちよつと窓をあけてらんる。トハ、イ、く、佐分どん久ト
あけさば佐分へひるがえ
いろく湯のさるまをのせめちこそ「モ」旦那どうみまき
佐分「ヤ、佐分どん旦那のうかううごま」ト「ホ、イ、そりつへあふ
 まくどり。うへるぜえわくかうんるまろこ子。さつき
 か出るまろこのをえとけさうう。せうう。くめん十
 めんして。旦那のお好む一トにものを。仕らんでめつて
 めんつこのふ。ト「ヤ、さうう人。それハママよくいそごうの
 こふ。おさつけてあらまき。うきうきの子。ト「めんお」くも

旦那が。お出るさううねんぢやア。ちがまうねん、せんるう
えちの、おのめや、何ん、旦那へのらろびうごうう。並
えんめろくしせううト。さくまを。さて由令其ん。海がの
えんまる、痔瘻の、積まき、れとがもみき。おまんおつう
 あさうらううしてめろくし。根もみきくせうののりまき
えん又、あらればら。まるや、お、世、お、う、て、屋、を、ぐるこら。
えん小こののりへらうう。小こののりお、て、乳、母、を、う。
えんお、う、う、ヤ、若、旦那、さ、ま、は、ら、う、も、ま、を、あ、く、か、ま、く

しうござうさま ^合「さうサ。供^のるハちうと用^がまらうて。
さうちうあしをねえつよ ^合「アノあまごらうその
あのご。お娘^とをかま^あそちて。かあうるみるうごう
^{いん}造^そさるが。まごこふか案^あトまらうてお出^るさう
まを ^合「くさうごうの。おまのさうちうあし
るんど。アノ今日^けどこぞへ移^りさ ^合「ハイ今日^けの
^{せい}清^みるんと申^の合^ござうさま ^合「フウ坊^ぢも
どう ^合「お坊^ぢさんハ今^けお行^がどちへちうあつて

かてまわりのま ^合「さうう。おまのまをわへまわ入^り
の ^合「アノとんどゆをちう ^合「ま ^合「三^じ日^には日^はか
おまさうぬとて ^合「おまのまをわへまわ入^り
う。 ^合「今^けおまのまをわへまわ入^り
ゆをちう ^合「アノまご ^合「ま ^合「ま
どよふちうねえの。アノ ^合「ま ^合「ま
あごまへふきで ^合「アノ ^合「ま ^合「ま
まねえ ^合「アノ ^合「ま ^合「ま

世界でも出来まじう。今 （一）とんごりよさのめありらの世界
 どころら。今 （二）ゆもキムめでさへねんあつよ。ちつとなりうの
 世界へ （三）業因一てあはして人の心 （四）「是もまじしあはしつ
 ふ万 （五）、一 （六）とねりのあま。あまが おふるまはつた
 えとをけまて。ちよろひり （七）趣向一てあつる事しつる
 めうあとのおあつて。大さよ鼻をあきまじうこのと
 今 （八）アさうごころ。そいつア 殊念ごりけの、あま一
 今 （九）をまゐりがあつる人そんあつるを。あま一
 今 （十）アさうごころ。そいつア 殊念ごりけの、あま一

ちうつ （十一） 大 （十二）はあつるを。あま一
 今 （十三）と （十四）は （十五）や （十六）信 （十七）今 （十八）も （十九）ん （二十）ぞ （二十一）の （二十二）ら （二十三）も （二十四）く （二十五）い （二十六）そ （二十七）が （二十八）一 （二十九）ひ （三十）う （三十一）ら （三十二）。
 女 （三十三）の （三十四）あ （三十五）ん （三十六）ひ （三十七）ま （三十八）い （三十九）あ （四十）る （四十一）あ （四十二）ま （四十三）の （四十四）心 （四十五）。 （四十六）そ （四十七）こ （四十八）が （四十九）ゆ （五十）か （五十一）つ （五十二）る
 の （五十三）で （五十四）。 （五十五）是 （五十六）でも （五十七）む （五十八）の （五十九）あ （六十）ん （六十一）女 （六十二）も （六十三）あ （六十四）る （六十五）や （六十六）。 （六十七）お （六十八）を （六十九）も （七十）も （七十一）ま （七十二）ん （七十三）で （七十四）も
 の （七十五）う （七十六）に （七十七）ま （七十八）た （七十九）の （八十）サ （八十一）。 （八十二）ま （八十三）づ （八十四）女 （八十五）も （八十六）あ （八十七）る （八十八）み （八十九）と （九十）り （九十一）よ （九十二）喚 （九十三）ま （九十四）た （九十五）。 （九十六）今 （九十七）と
 今 （九十八）合 （九十九）して （一百）を （一百零一）や （一百零二）く （一百零三）ま （一百零四）ら （一百零五）あ （一百零六）げ （一百零七）。 （一百零八）か （一百零九）う （一百一十）る （一百一十一）この （一百一十二）慈 （一百一十三）衣 （一百一十四）裳 （一百一十五）を （一百一十六）。
 引 （一百一十七）け （一百一十八）の （一百一十九）親 （一百二十）ら （一百二十一）の （一百二十二）前 （一百二十三）を （一百二十四）去 （一百二十五）の （一百二十六）び （一百二十七）足 （一百二十八）ら （一百二十九）も （一百三十）と （一百三十一）ぬ （一百三十二）け

かけの。遠足出して所多まへへ行く。ろろトはツ限も
 目ふるけむ。そきむこしてよりの天神。サアそとろろろ
 仁のえんえん。おろろ狸の後つごトのうぢでえま
 をますひゆりある。ふさんのあとあり。おれまへーの
 仁今三味せん袋を脊負ちゆうちんさうごみ小引
 さげ供をして来る。おれまへへ仁今とん太きふは昔
 そんるろろゆき。おれまへへ仁今とん太きふは昔
 是で一ツ森でお森よト。おれまへへ仁今とん太きふは昔
 仁今三味せん袋を脊負ちゆうちんさうごみ小引
 さげ供をして来る。おれまへへ仁今とん太きふは昔
 そんるろろゆき。おれまへへ仁今とん太きふは昔
 是で一ツ森でお森よト。おれまへへ仁今とん太きふは昔

仁今三味せん袋を脊負ちゆうちんさうごみ小引
 さげ供をして来る。おれまへへ仁今とん太きふは昔
 そんるろろゆき。おれまへへ仁今とん太きふは昔
 是で一ツ森でお森よト。おれまへへ仁今とん太きふは昔
 仁今三味せん袋を脊負ちゆうちんさうごみ小引
 さげ供をして来る。おれまへへ仁今とん太きふは昔
 そんるろろゆき。おれまへへ仁今とん太きふは昔
 是で一ツ森でお森よト。おれまへへ仁今とん太きふは昔
 仁今三味せん袋を脊負ちゆうちんさうごみ小引
 さげ供をして来る。おれまへへ仁今とん太きふは昔
 そんるろろゆき。おれまへへ仁今とん太きふは昔
 是で一ツ森でお森よト。おれまへへ仁今とん太きふは昔

沢でいぢやアまうつて遊あそむふあるといふまうらう。顔かほケ
 えさふつらうく。ちやをり迷つて又と人ひと。コヤをらう
 いるんでありまき人ひと。清せいどんや休やす人ひとどんが夢ゆめてある
 のみそんるとを合ハテいと人ひとが夢ゆめても丈ぶちするいての。コウ
 小こ三さん。こんるる麻あしらやア誰だれがあさうらう。おとよけしつと
 是こゝ不ふどの。門かど房ふらうでいるつらうけのよ休やす人ひと公こう揚やうき地ちや五
 の茶ちやのくあしもあるうらう。そのまうらうしといふもよわ人の
 休やす人ひと だんま じのつとあ 不ふせし
 こころやア足あし股またのぐはむと。然しかてもまよむしのかや不ふのひらうか。

小こ三さんさんいやりをうお不ふとれがぬけませんね 命いのちのく
 お不ふとどらうら。がらうが衰おとろして古ふる裡ところといはるうみけのど。
 化かさまうくと。然しかうつちやをうたうされるい。おまごが
 一生いっせいのあやまらうと。コヤよろしくやておらんるさあまうい
 らそつらうを化からままらうのでいさま 命いのちをらやア
 まこるせと。コレでも唄うたふもうよまらう。おがらうとこ
 在あるをまらう。まらぬれ地ちで昔むかしあまらうといふくつらうの
 身みの上うへにうらうつと唄うたでいさまをよ 命いのちをら 昔むかしあまらう



おとまり

みるのもおもしろいと云う。そまおれん
 ちと。モシ旦那。ふとさんのおらうの文の
 みるよ。わんふとさん。おのけつてい
 ぬ。おのけつてい。おのけつてい。おの
 けつてい。おのけつてい。おのけつてい。

みるよ。わんふとさん。おのけつてい
 ぬ。おのけつてい。おのけつてい。おの
 けつてい。おのけつてい。おのけつてい。

おとまり

十七

中うふもいふべ。かぶづついもあそをーしませう。ちつと
 づ酒いよとあぶらまへ。かねまきのちと中うがぶざりまへ
 まい。おんおか坊ぢさんもよくかぶらう。あまつらとねのお
 床とこをのべませう。おこんまうそのみせうてが抱だて
 床あ中うう。か床とこをとつてよげてあうま。ト金きんと脚あしを
 いさきあぐるふぞ。乳うかへの内うち六む零ろのたげへ床とこ
 ととりよ敷ぎをだしてモしるはねさるへサアかよらう
 中ちうちトまさて 中ちうちトまさて 中ちうちトまさて 中ちうちトまさて
 中ちうちトまさて 中ちうちトまさて 中ちうちトまさて 中ちうちトまさて

下しも美みをらりふらりて床へ合サアかつアも床ねかへう坊さい
 かまがぶいて床あう。おまるうが抱だておあうらう。そまま
 こそぶてかままひるまるらうらう。いいるま。ぶぶーても
 あまのみぶらうら。どれも何ともゆひ人のわかへ方か一いか
 まがぶーらう。又またのとらーらるもト
 小こ下したまさるまをあつからよ。アレかよーみさん。そんな
 小こ下したふりちると目をまるーすた。起おちわアまるらうこまらう
 小こ下したまま 二に起おちわアまるらうこまらうこまらう
 小こ下したまま 二に起おちわアまるらうこまらうこまらう

只ただようくく森もり坊ぼうままどどぞぞ。ゴゴレレちちううとと月つきををささままししててああままをを
 わわへへうう。どどちちよよししととトト くまをり そらふま 小アアととおおよよーーみみささののととりり
 ののふふ。海うみるるささききへへままてて 起おこししああわわアアいいけけまませせんんよよ 合 く
 そそんんるる乳ちち母ははのの処ところへへおおつつてて森もりるる。今いま月つきををささままししてて注しづ出で
 ままとと。かかつつららアアのの竹たけののうう飛とぶぶアアふふるるささままししととトト ねこまをの まへまを 乳 母
 をを合あののみみををめめきき抱いだききてて。次つぎののまま入いりりててううちち外そとへへ
 けけるる

假名文章娘節用後編中之巻終

